

伸びないかと思われていました。しかし緩やかに需要はでており、爆発力はないがモノは動いているといった状況とのことでした。

来年の春ごろには外材在庫が適正化するといった話や欧州材がまた入荷されにくくなりそうであるとか不確定な噂が出ており、だれも確信をもつて来年以降の市況を読めない状況にあるということがはつきり見えってきた会議となりました。

その他、参加者からの議題として挙げたものは2024年の運送業における働き方改革の実施についてです。特に、長距離便を利用する参加企業からは今までワゴン車で配送ができていたエリアだったが、仮に、働き方改革が実施されればツーマンになり運賃は倍以上になる可能性が出てきているといった意見も出ました。

他にも、燃料費高騰で経費が増加していることに対する対策として、工場内に自社のガソリンスタンドを設置するなどの取り組みをしている企業もあり、円安や物価高の影響は確実に出てきていると感じる会議でした。

会議の最後には、部会長より市況の見通しも難しく、好転率が悪化するかもしれない状況ではあるが国産材の安定した販売のため情報共有を行い、買い方・売り方の利益になるよう取り組むといった確認がなされ、実務会議は閉会しました。



お知らせ
下記の日時において社内研修を行います。
12月2日(金)
(8時~13時)
積込や荷降ろし等、事前ご弊社担当にご連絡、ご連絡は、作業は対応いたします。大変ご迷惑をお掛けいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

余談ですが、今回実務者会議が開催された会場は、九州木材市場連合会現会長の株式会社アサモク多田社長が運営されている福岡県福岡市博多区綱場町1-7-1にある「森のコミュニケーションルーム」で開催されました。通常は、貸し会議室として運営されているスペースです。内装は木材が多く使用されており、また香りも強く出ている会場でした。都会の中では珍しい、木材をふんだんに活用したレンタルスペースということもあり利用率は非常に高いそうです。我々としては木材市場ということもあり見慣れた材料だったので都市に住んでおられる方にとって木材は特別な印象があるようで木材に触れる体験自体に価値を見出すそうです。こういった感想もなかなか知ることができないものだと、感じる出来事でした。会員の皆様も博多で会議等を計画される際はぜひご利用ください。



木材動向

◎ **素材**
10月の取扱材積は47,363㎡と、先月より3,600㎡増となり、目標比0.1%となりました。
本来10月は九州各地で優良材市や創立記念市などが相次ぎ、相対量

の丸太が溢れかえるのですが、今年は台風の影響などでエリアによって出材量がバラツキが出ているようです。
そのことは丸太相場にも影響しており、先月号でも話したように、スギにおいては熊本を筆頭に、九州南部エリアにおいては熊本を筆頭に、九州南部エリアで好調な価格となっており、通常は大分県内へ出材される丸太が、熊本方面へ流れている!?などの話もあり、このことでも出材量のバラツキとなっていると考えられます。
また、南部エリアでも不足感が出てきた為、その分を九州北部エリアまで買いが広がり、4m中目直材16,500円/㎡前後、小曲材14,500円/㎡前後と、結果的には九州全体が高値安定となつてきているようです。
一方のヒノキにおいても、月初市と月末市では500円~1,000円程度ですが値戻しが起きており、この理由は、さすがに価格低迷が酷い為、素材生産者サイドでのヒノキ生産からスギ生産に切り替えが増えてきて、ヒノキ出材

量が減ってきた!?との事で、慌てて手配を強めるヒノキ製材工場が出てきたようです。
また、先月までは16~18cmより20~22cmに買いが集中していたのですが、10月に入って、13~14cmと16~18cmに注文が集中してきた状況で、ヒノキ業者の方々の考動には…です。

先日、全日本木材市場連盟の原木部会WEB会議があり、スギにおいても全国各地で流通状況や価格面も若干のバラツキがあり、九州はまだ良い方と感じましたが、ヒノキにおいては全国共通で厳しい状況に変わりはありません。
今後については、各資材の高騰や物価高のありを受けける上、やはり現状主要な港倉庫に外材在庫が溢れている事、極度の円安さらに安い外材が入り、その価格に国産材が翻弄されるのでは!?との考えが多く、最低でも数ヶ月と言っ方から、今後一年半近く厳しい状況が続くと言っ方も居られるほどです。

但し、業界紙に取り上げてあった、中国産合板アーカーへのJAS執行一時停止や、秋田県の合板工場2工場の火災などで、減産予定であった合板工場が、若干生産を強める可能性が出てきた!?などは、今のこの状況では期待してしまっコースではありません。

立木買います!
090-2021-888

◎ 製品

本格的な需要期を迎える10月に入っても市況が活発とは言えません。先月もお伝えしたように、販売店・プレカット工場、市場保有などは以前として、単価が高い在庫を保有している製品の先行きが不透明な事から積極的な製品の手当てとはならず荷動きは非常に厳しい状況となっております。

そのような中、9月以降九州管内の製品市場においては記念市などが各地で開催され販売に苦戦を見せています。市況の低迷による急速な価格の下落の中で在庫分を多少値下げで販売しても価格が追いつかない状況も見らる用買いが多く見られます。原木状況のみならずスギにおいては大きな価格の下げはなっていないことで各生産メーカーは大きな値下げを出来る状況では無く、むしろ電気代などは上がっている事で生産コストは上がっており原木価格だけで判断できる状態ではありません。

10月の当市場の相場は、ヒノキGR土台1等上4m 1.05×1.05/㎡ 5,000円/㎡、ヒノキKD土台A(前月比▼2,000)ヒノキKD土台A 4m 1.05×1.05 8.5,000円/㎡、(前月比▼5,000)スギGR母屋角1等上4.3,000円/㎡、4.6,000円/㎡(前月比横ばい)スギKD母屋角特1 7.5,000円/㎡、8.5,000円/㎡(前月比横ばい)スギGR平角特1 4m 1.05×1.50/㎡ 1,800

(120厚同じ) 4.3,000円/㎡、4.6,000円/㎡(前月比▼2,000)スギKD平角特1 4m 1.05×1.50、180(120厚同じ) 70,000円/㎡、(前月比▼5,000)スギGR小割(30×4.5、4.5×4.5、4.5×6.0)特1プレナ150,000円/㎡、5.8,000円/㎡(前月比▼2,000)スギGR間柱(300×105、4.5×105)特1プレナ152,000円/㎡、6.0,000円/㎡(前月比▼3,000)スギ野地板2m12×小幅30,000円/㎡、3.3,000円/㎡(前月比横ばい)スギKD柱3m1.05×1.05 A品8.5,000円/㎡、(前月比▼5,000)スギKD間柱3m 3.0×1.05 7.5,000円/㎡、8.5,000円/㎡(前月比▼5,000)スギAD小割材70,000円/㎡、(前月比▼5,000)スギKD小割材70,000円/㎡、80,000円/㎡(前月比▼5,000)となっております。

生産工場によつて価格差が見られますが、全体的に2,000円/㎡、5,000円/㎡の下げで推移となりました。その中でGR母屋角は引き合いが強くなる、出荷量が少ない事から大きな値下げとはならず価格が下がるのではありません出荷を調整したいという生産工場も見られるなか量を優先する事で特別価格として大きく価格を下げる事や、各市場の記念市などで安価な製品が見られるケースが増えています。

国産構造用針葉樹合板は荷動きの停滞が続いており中国合板メーカーのJAS認定停止の影響を受けて国産メーカーへの引き合いが強まるという見方もされていましたが、大きな引き合いは見られないうほど各需要者は在庫が多い事が伺えます。

輸入材の状況は、第4四半期の交渉が概ねまとまっています。国内の在庫量が依然として多い事から価格交渉に時間がかかった事もあり年明けの入荷が大幅な減少となっている模様です。価格面においては生産コストを押し上げている接着剤やガソリン、電気代の高騰は欧州などは日本以上に上がっている事から輸入材の価格においてはそろそろ底値が見えてきているのではないかと云われています。

昨年のウッドショックを発端に国内の住宅メーカーなどは環境的な側面からも国産材利用が加速しています。住宅における木材を全て国産材で賄えるという状況では無いものの、一定以上は使用するという考え方は今後さらに増えてくると考えられており今更け以上に供給体制の整備が必要になってきます。

初市 商売繁盛と安全祈願祭
毎年恒例となりました「初市 商売繁盛と安全祈願祭」を下記日程で開催致します。

2023年 1月1日(水) 10時
皆様のご参加をお待ちしております。

Topics 1

来年の市日とJAS製材品展示会の案内

2023年の株式会社伊万里木材市場市日予定表が完成いたしました。2023年は8月29日(木)に木栄会協賛特別市が開催され、11月28日(月)には木栄会協賛創立63周年記念市が開催されます。

特に、2023年の11月記念市は第51回JAS製材品普及推進展示会も開催されることとなります。2022年は9月に熊本木材九木センターで実施されており、弊社で開催されるのは2020年以来3年振りとなります。前回開催時には、全国より24社の商品を受けJAS製材品のみで275.㎡のご協力をいただきました。正式な予定表は、弊社担当者がお客様回りの際に持参いたします。

2022年も残すところ二ヶ月となりました。2023年も出荷お買い上げとまで
どうぞ
よろしく
お願い申
し上げま
す。



木材動向②

住宅着工統計

2022年10月3日発表
9月分/出典：森山田事務所

● 9月の新設住宅着工は、持家は減少したが、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比1.0%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比5.1%の減少となった。

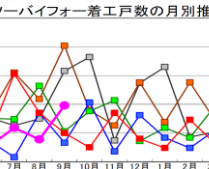
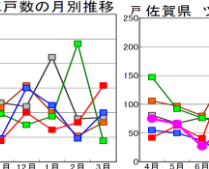
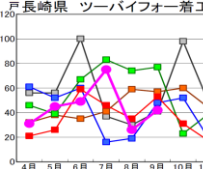
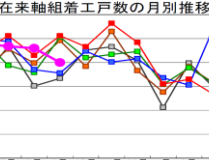
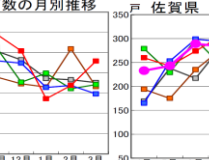
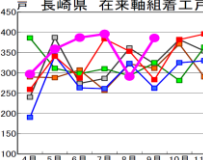
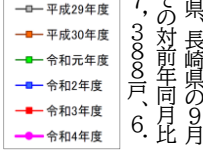
区分	全国利用関係別			分譲		
	合計	持家	貸家	全分譲	マンション	戸建
戸数	73,920	22,248	30,555	20,766	8,386	12,290
前年同月比	1.0%	-13.3%	8.1%	10.1%	15.7%	6.8%

区分	全国工別別			
	木造	在来	2×4	木質I/II
戸数	42,381	33,101	8,383	897
前年同月比	-6.1%	-4.8%	-9.1%	-20.1%

● 木質工法別にみると、木造が6.1%の減少、在来軸組が4.8%の減少、2×4が9.1%の減少、木質I/IIが20.1%の増加となった。

◆ 全国、九州地区と佐賀県の在来軸組及び、2×4着工戸数の別推移

● 九州地区、佐賀県、長崎県の9月の新設住宅着工数とその対前年同月比は、それぞれ、九州7,388戸、6.5%減、佐賀4,305戸、5.3%増、長崎4,855戸、4.7%減となった。



11月28日(月) 木栄会協賛 創立62周年記念市

【市売り企画一覧】
(原料) 各種産材コーナー
贈賞金付きコーナー
年間出荷社 上位発表 記念品贈呈
国有林委託コーナー

(製品) 産地特産品販売
贈賞券

(共通) (木栄会) 早出賣
お土産 会員出陣コーナー
贈賞品 贈賞金付き販売

※企画については変更の可能性もございます

10時より木栄会会長のご挨拶がありましますので、早目のご来場をお願いいたします。
会長挨拶終了後、早出賣の配布を行います。
お客様方のご来場を、従業員一同、お待ちしております。

佐賀県伊万里市山代町楠久145番30
TEL 0955-20-2183 FAX 0955-28-2855
URL <https://www.imarimokuzai.co.jp>

編集後記

◎ 木の可能性ってすごいなと実感した話。先日「透明な木材がプラスチックに取って代わる可能性」という記事を見た。透明な木材ってどういうこと？と思い検索してみた。すると、2016年スウェーデンの大学の透明なベニヤ板を開発したという記事があった。さらに、2008年に京都大学の研究チームが木材セルロースナノファイバーに関する論文を発表し、透明な木材をLED照明のベース基板にすることを目指しているとのこと。なんでも、木材は基本的に植物繊維の主成分であるセルロースとセルロースを結合して強度を生み出すリグニンで構成されており、このリグニンが色を司っていて、これを除去すると透明になるというのだ。製造コストが高いという問題があったそうだが、研究が続けられ、様々な方法で透明にする技術が確立され、さらに、脱プラスチックの動きもあり、この度のこの記事は、インドの大学の移りは環境保護に有効である木材への分析結果を公開したというものだ。普通の木の板をガラスのように透明にした上にガラスよりも丈夫で優れた断熱性を持ち、さらに、環境にもやさしく、再生可能な木を持つ可能性は無敵だ！ある研究者によると、「理論的には家全体を透明にすることも可能だ」と。さすがにそれはちょっと困るけど…。